



# Q 住民が安心して生活する環境を維持するために「マナー条例」の制度化を & 渡 辺 千 恵 (文責)



A 他自治体の事例や条例の実効性を研究し、地域課題の状況を見極めながら、総合的に検討した上で判断していく



危険空き家が増える前に対策を

外国人居住者の増加、インバウンドの増加により、経済が活発化する一方、急激な地価上昇やマナー問題などが起こり始めている。これらのルール整備は民間だけでは難しく、行政が担うべき領域であり取り組みが必要では

## 質問

他自治体でも「マナー条例」など取り組んでいる。湯沢町も生活マナー（ゴミ出しルール、雪トラブなどの迷惑行為、無断駐車、雪道の迷惑運転など）について

て、トラブル相談窓口支援などの多文化共生について、企業・管理会社の説明義務の強化などの3本柱のルール条例の検討をするべきでは。

## 答弁

町としてしっかり検討して総合的に判断していく。

## 質問

物件購入後に不在になり、危険空き家の増加が想定される。建物所有は個人の問題ではあるが、この問題についても不動産業（宅建業者）と連携し、物件購入時に管理計画書（居住の有無、空き期間の管理方法、緊急連絡先、管理委託の有無）など提出を義務づけるなどの条例化を検討するべきでは。

## 答弁

不動産の取得や所有は個人の財産権に関わるもので、行政が関与できる範囲は限界がある。空き家問題

## 新教育長にこれからの湯沢学園への取り組みを問う

## 質問

スキー授業の激減、山登りなどもなくなり、自然豊かな教育資源を持ちながら活かしきれていないのではないか。

## 教育長答

小学校、中学校で身に付けるべき力をしっかり付けた上で、豊かな環境を活用していくことが大事。

## 質問

湯沢だからできる教育を行うことが将来の担い手を育てることに繋がるのではないか。町の資源、学校の強み、未来戦略を掛け合わせ、核となるテーマ（観光、環境、雪対策などの探求テーマ）としての取組、地域の観光産業と連携したキャリア教育、国際化が進む湯沢での英語教育特化）など、特色ある湯沢

学園を目指しては。

## 教育長答

義務教育を行う小中学校である観点が第一。特色ある学園については、卒業した後からも子どもたちの心の中に蒔いた種が開き、ここを卒業した仲間だというプライドを醸成していけるような風土作りを進めていきたい。



湯沢ならではの特色ある学校に